

糸満中学校

事前学習ワーク

2年 組 番 名前 _____

1. 5月にとれる魚の種類はどのような名前の魚か(その魚は赤身・白身)

2. さばきやすい魚はどれか。

3. どのような調理方法がおいしく食べることができましたか。

4. 魚をさばく時、準備するものはなにか。

5. 魚をさばく時に注意しないといけないのは、どこの部位か。

6. キャンプ場で魚をおいしく食べる方法は。

7. 魚と合わせる食材は。

8. 高級魚はどれですか。(魚の名前)手頃な魚はどれですか。

9. ()

10. ()

11. ()

12. ()

13. ()

海洋教育パイオニアスクール（事後アンケート）

糸満中学校 2年 組 番 氏名 _____

1. 海に親しんだり、海に関する行事に参加したいと思いますか。

ア.とても思う イ. 思う ウ. あまり思わない エ. 思わない

2. 海の自然環境、海を取り巻く人や社会との関わりについて調べたいと思いますか。

ア.とても思う イ. 思う ウ. あまり思わない エ. 思わない

3. 沖縄県（糸満市）周辺の海洋資源について分かりましたか。

ア. よく分かった イ. だいたい分かった

ウ. あまり分からなかった エ. 全く分からなかった

4. 沖縄県産の魚を知ることができましたか。

ア. とても知ることができた イ. 知ることができた

ウ. あまり知ることができなかった エ. できなかった

5. 魚料理が好きになりましたか。

ア. とても好きになった イ. 好きになった

ウ. あまり好きではない エ. 好きではない

海洋教育パイオニアスクール（事前アンケート）

糸満中学校 2年 組 番 氏名

1. 海に親しんだり、海に関する行事に参加することは好きですか。

ア.とても好き イ. 好き ウ. あまり好きではない エ. 好きではない

2. 海の自然環境、海を取り巻く人や社会との関わりについて調べたいと思いますか。

ア.とても思う イ. 思う ウ. あまり思わない エ. 思わない

3. 沖縄県（糸満市）周辺の海洋資源について知っていますか。

ア.よく知っている イ. だいたい知っている

ウ. あまり知らない エ. 全く知らない

4. 沖縄県産の魚を知っていますか。

ア.とても知っている イ. 知っている ウ. あまり知らない エ. 知らない

5. 魚料理は好きですか。

ア.とても好き イ. 好き ウ. あまり好きではない エ. 好きではない

1. 海の自然に親しんだり海に行くことが好きですか。

ア.とても好き イ.好き ウ.あまり好きではない エ.好きではない

2. 海の環境について調べ、きれいな環境を守ることに興味はありますか。

ア.とてもある イ.ある ウ.あまりない エ.ない

3. 海の自然や資源、海を取り巻く人や社会との深い関わりについて調べたいと思いませんか。

ア.とても思う イ.思う ウ.あまり思わない エ.思わない

4. 海を利用する職業に関して知っていますか。

ア.よく知っている イ.知っている ウ.少し知っている エ.知らない

5. 糸満市と海の関係について思い浮かぶことをあげなさい。

魚料理を作ろう

2	年	組	番	男女	氏名		班	点検印
---	---	---	---	----	----	--	---	-----

班のメンバー

男子	係名	氏名(正式名・漢字で書きましょう)	女子	係名	氏名(正式名・漢字で書きましょう)
1	班長		6	副班長	
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

献立名				献立名				献立名			
	担当	材料名	1人分 人分		担当	材料名	1人分 人分		担当	材料名	1人分 人分
調理用具											
調味料等											
担当者名											
盛りつけ・配膳図				盛りつけ・配膳図				盛りつけ・配膳図			

あんま一市場 魚料理 注文書

2 年

組

料理コンテスト用 各班 1人分 プラス

1班 人 班長 副班長			
2班 人 班長 副班長			
3班 人 班長 副班長			
4班 人 班長 副班長			

※5月30日（木）に「サバニ漕ぎ体験」を予定しています。その前に「サバニ」がどういう物なのかを学習しましょう。まずは映像を見て、サバニの由来やサバニの歴史について学びましょう。

メモ（テレビを見て大事なことをメモしよう）

改めて「サバニ」について確認

（1）サバニって何でしょう？サバニの由来は？

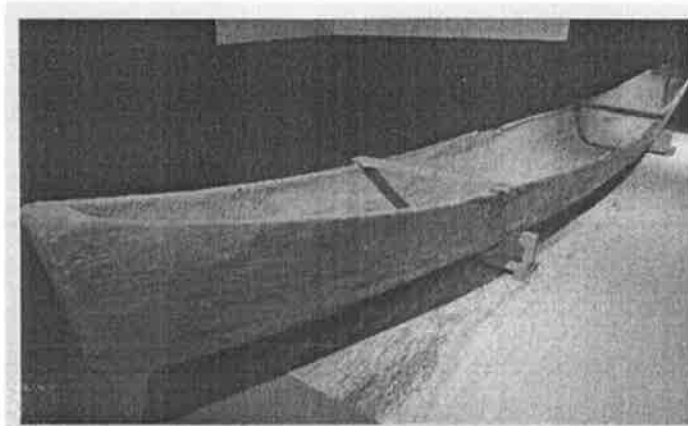
（2）その時漁業に使われた船は「丸木舟」という舟でした。一体どんな舟だったのでしょうか。

（3）1884（明治17）年、糸満出身の玉城保太郎が八重山で発明したのは何だろう？（ヒント：今では当たり前のように使っているもの。

（4）今では、一体どのようにして漁で使わなくなったサバニを残す努力をしているのでしょうか。思い出してみよう。



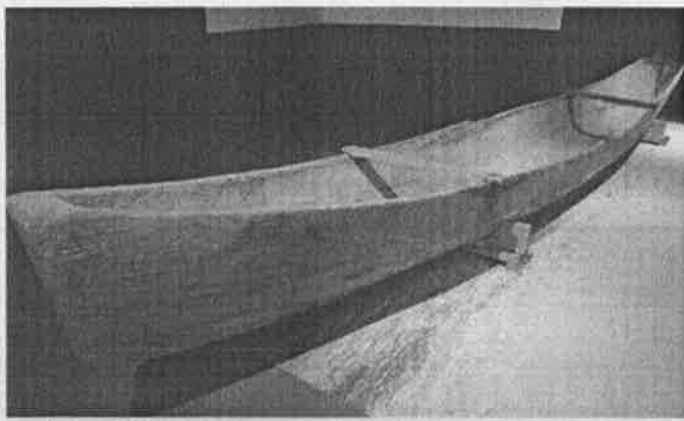
(1)「サバニ」ってなんだろう？



丸木をくりぬいて造ったマルキンニ
(写真提供：沖縄県立博物館・美術館)

「サバニ」を知っていますか？（クリック）これがサバニです。琉球王国時代、糸満は王府から特別に漁業をするよう推奨されていました。糸満では、とれたサメやナマコの干物は中国に輸出されていました。

「サバニ」の名前の由来ってなんだろう？

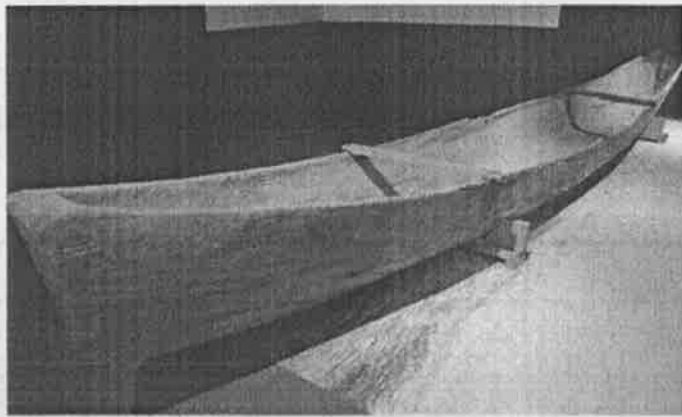


丸木をくりぬいて造ったマルキンニ
(写真提供：沖縄県立博物館・美術館)

サバニの由来は糸満ではサメを「サバ」と呼んでいた。「サバをとるための舟」という意味の「サバアッキサーブニ」が短くなって「サバンニ」と呼ぶようになっていったと考えられる。

「サバニ」の由来は何ですか。知っている人？サバニの由来は糸満ではサメを「サバ」と呼んでいた。「サバをとるための舟」という意味の「サバアッキサーブニ」が短くなって「サバンニ」と呼ぶようになっていったと考えられる。一方、小舟という意味の日本語「スブネ」「サブネ」がなまって「サバニ」になったという説もあります。

(2) サバニの原型の丸木舟

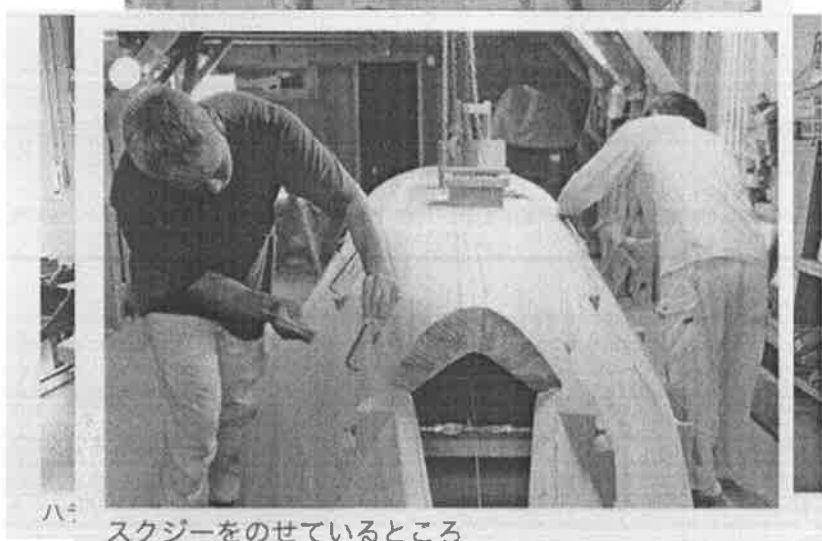


丸木をくりぬいて造ったマルキンニ
(写真提供：沖縄県立博物館・美術館)

丸い木をくり抜いて作っていたが、無駄にする部分も多いということもあり、はぎ舟が作られるようになる。

これはどういう舟でしょうか。実は丸木舟というのは、一本の丸い木をくり抜いて作っていました。これは無駄にする部分も多いということもあり、はぎ舟が作られるようになりました。

ハギ舟ってなんだろう？



1880年（明治13）年頃にはハギンニが生まれました。この行程は先ほどの映像にもありましたね。はぎ船とは、板を曲げ、はぎ合わせて造る船のことで、（クリック）木を曲げる時はお湯をかけてゆっくりと曲げていきます。（クリック）徐々に完成型へ近づいていきます。

(3) 1884(明治17)年、玉城保太郎が発明したものは？



ミーカガン（水中メガネ）は、
やわらかいモンバの木で作られる

サメを獲る漁ができなくなると、ボタンを作ったりする貝を獲るようになった。そのため、海の中は濁って見えないため、水中メガネの原型となるミーカガンを発明した。

ミーカガンが考案されてからは、潜水を主体とする追い込み網漁業が発達しました。そのおかげで糸満の漁業は大きく発展し、宮古、八重山、奄美群島、長崎、島根県、東京都八丈島などのほか、東南アジアや太平洋の島々まで行って漁ができました。

アギヤー漁(追い込み漁)とは？



では、追い込み網漁業というのは、魚の群れを網に追い込んで一度に大量の魚を獲ることです。今では行われていませんが、糸満はこの追い込み網漁業でさらに発展していきました。

戦後のサバニ



この大きなサバニ
がエンジンがつい
ているサバニ

復帰前の糸満漁港。左から三そう目のサバニ中央部に
エンジンカバーがついている（撮影：東風平朝正/
写真提供：糸満市教育委員会）

戦後のサバニはどうなったでしょう？（クリック）これは復帰前の糸満漁港です。海人たちは懸命に魚を獲り、暮らしを豊かにしていきました。しかし、アメリカからエンジンが入ってきたため、昔ながらの帆掛け舟よりもエンジンつきの船が人気となり、サバニは大型化していきました。（クリック）これがエンジンのついたサバニです。左側と大きさがだいぶ違いますね。

(4) サバニを世の中に広めるために行っていることは何だろう？ 思い出してみてください。



最後に。今日では、大きな漁船が主流で、サバニを目にする事はなくなってきました。しかし、糸満の町を支えたサバニです。伝統文化が消えてなくなるのは悲しいです。映像では、現在、このサバニを「後世へ伝えたい、文化遺産として認めてほしい」という気持ちで動いている方々いらっしゃいました。どういう取り組みをしていましたか。(クリック) 今では、マリンスポーツとして年に1度レースを開催しています。また、観光客に体験させたり、地域の方や子供たちにも体験させ、伝統文化を継承する活動を行っています。さて、来月みなさんは実際にサバニ漕ぎに挑戦します。どんな気持ちで体験活動に臨みたいと考えていますか。ハーレーの時期でもあります。ハーレー舟もサバニですね。サバニの歴史を知った上で、ハーレー舟に乗ってみると、これまでとは違い、先人たちの思いを感じることができるのではないかと思います。

海洋教育「サバニ漕ぎ体験 事前学習」

総合的な学習の時間 4月26日（金）

※5月30日（木）に「サバニ漕ぎ体験」を予定しています。その前に「サバニ」がどういう物なのかを学習しましょう。まずは映像を見て、サバニの由来やサバニの歴史について学びましょう。

メモ（テレビを見て大事なことをメモしよう）

改めて「サバニ」について確認

（1）サバニって何でしょう？サバニの由来は？

（2）その時漁業に使われた船は「丸木舟」という舟でした。一体どんな舟だったのでしょうか。

（3）1884（明治17）年、糸満出身の玉城保太郎が八重山で発明したのは何だろう？（ヒント：今では当たり前のように使っているもの。

（4）今では、一体どのようにして漁で使わなくなったサバニを残す努力をしているのでしょうか。思い出してみよう。



「新・糸満造船所」について学ぼう

3 - _____ No. _____ 名前 _____

5月30日(木)に美々ビーチ近くにある「新・糸満造船所」を見学します。見学前の事前学習として、糸満造船所について少し学んでみよう。映像を見て、次の質問に答えよう。

(1) 新・糸満造船所の敷地面積は？

- ① 100坪 ② 1,000坪 ③ 10,000坪

(2) 造船所が主に行っている仕事は何でしょうか。

- ① 造船 ② 船舶点検 ③ 舟の掃除



(3) 糸満造船所にある「シンクロリフト」は日本にいくつありますか。

- ① 1つ ② 2つ ③ 3つ

(4) 「シンクロリフト」が糸満(沖縄)にあることによって、もたらされた効果はどんなものがあるでしょうか。経済面の視点から書いてみよう。

(5) 糸満造船所を見学するに当たり、聞いてみたい質問を書いてみよう。(1~2の質問を考えること)
※進路面からも質問してみよう。

(6) 映像を見て初めて学んだこと、驚いたこと、当日知りたい事等を書いてみよう。

(7) 見学をしながらメモをとりましょう。(ここは当日記入します)

「海の環境について考えよう」実施要項

1 ねらい

- (1) 環境問題となっている海洋ゴミ問題について知る機会とする。
- (2) 身近な地域の海と世界の海がつながっているということを改めて認知し、身の回りのレベルで、海洋の保全に向けどう取り組むことができるかを考えるきっかけとする。
- (3) 「豊かな海を守ろう」(SDGs目標14)の視点を取り入れ、海の環境について考える場とする。

2 日 時：令和元年 7月 2日 (火)

3 日 程：6校時 (14:35~15:25)

4 演 題：「海の環境問題について考えよう」

5 講 師：大嶺 由紀(おおみね ゆき) 教諭(沖縄県立水産高等学校)
海洋技術科船長コース 3年生(3人)

6 対 象：本校3年生

7 会 順：14:35開始

- (1) 開演のことば・・・司会(生徒) 1分
 - (2) 講師の紹介・・・学年主任 1分
 - (3) ~講話~ 45分
 - (4) お礼のことば・・・(生徒) 2分
 - (5) 閉演のことば・・・司会(生徒) 1分
- 計 50分

8 講演会後の日程

- (1) 振り返り用ワークシート記入・・・宿題
- (2) 帰りの会・・・15:30~15:40

9 役割分担

- (1) 渉外(公文・発送)...
- (2) 講師出迎え・接待...
- (3) 司 会...(生徒)
- (4) 舞台設営(横断幕など)...
- (5) 放送準備・プロジェクター準備(パソコン)...
- (6) 「お礼のことば」指導...
- (7) 講師用水・スリッパ準備...
- (8) 駐車場案内・立て看設置...
- (9) カメラ...
- (10) ワークシート準備...

「海の環境について考えよう」

_____年 _____組 _____番 氏名_____

【1】講話中のメモ

